

-----  
当報告の内容は、それぞれの著者の著作物です。

Copyrighted materials of the authors.

-----  
タイトル：「バントゥ諸語のマイクロ・バリエーションの類型的研究（2）」（令和3年度第1回研究会，通算6回目）

日時：令和3年7月4日（日曜日）午後6時00分より午後8時00分

場所：Zoom 会議システム

参加者：品川大輔，阿部優子，李勝勲，梶茂樹，安部麻矢，若狭基道，宮崎久美子，古本真，角谷征昭，牧野由香

プログラム

1. 18:00-19:00 阿部優子（AA 研共同研究員，蘭州大学）・品川大輔（AA 研所員）  
「会議趣旨説明：本年度の活動計画と成果公開の予定、来期研究プロジェクトの申請について」
2. 19:00-20:00 参加者全員  
「バントゥ諸語声調マイクロバリエーションのパラメーター：各研究言語ごとのパラメーターの発表・議論」

議事内容

1. 本年度の内容とスケジュール

- Phase-2 の成果をどうまとめるか. cf. スライド
- パラメータに即した，各自の研究言語の声調データの整理と資源化を目指す. プロセスの確認とスケジュール調整. 参加者2名ずつ，個別にミーティングを開催し，既存の論文（梶編，2021）を基にデータ整理する.
  - 8-9月に個別にミーティングを設定：レギュラースロット＝水曜21時～

2. 次期プロジェクトに向けたブレインストーミング

- 資料編 = Phase-1 > 分析編 = Phase-2 > 理論編 = Phase-3  
BMV/MV-1 重点テーマ/covariation の分析 ?
- 理論編では何をするのか?
  - 類型論的一般化 (generalization) を目指す
  - 連動関係から見える新たな類型論的原理/法則性の検討
    - e.g. focus marking vs. patient inversion の連動から，patient inversion が topicalisation というよりむしろ積極的な syntactic focus marking strategy であることの理論的予測，など (cf. Shinagawa & Marten 2021a)
  - それをさらに個別の言語，現象に立ち返って詳細に検討する.

- 議論のテーマ : **Phase-3** のテーマとしての類型論的一般化 (**generalization**) のための関心の頭出し.
    - ⇒ ひとりひとりの個人的な研究 (個別言語の記述) の中で「他のところでどうなってるか気になる現象」を共有. それを「一般化 (□理論的考察)」の主要対象にする.
    - +ヨーロッパ的な理論的一般化に対する新たな貢献/現在の欧米主導の理論研究が見落としている現象へのアプローチができないか?
    - ⇒ 日本のバントゥ語学が培ってきた視点を積極的に活かす.
- cf. Morimoto & Yoneda (to appear)** に代表されるような情報構造関連現象への新たな視座 **etc.**

### 3. 次回研究会までの課題

- **To do:** SOAS のデータベース “**Bantu Morphosyntax Variation**”へのアクセス権および利用可能な資料について, SOAS 側と相談すること.
- メンバーの業績を集積して共有し, 各メンバーが取り組んでいる研究テーマを見えやすくする.